石川小学校だより

創立１０周年を迎え，地域と共に新たな一歩を！

Sekishou 通信

R7・3.28
NO，３２
文責：校長 酒井

めざす児童像：夢や希望を追い求め，失敗も学びにかえる子

☆☆万感の思いを胸に！82名の巣立ち。☆☆

「卒業生退場」のアナウンスが入ると，緊張から解き放たれた子ども達の顔にやっと笑みが戻りました。

卒業式は，１年間の中で一番大切な行事と位置付けてきたこともあり，子ども達も先生方（特に卒業学年）も緊張の中での式でしたが，創立１０周年の節目の卒業式が無事に終了しました。

入場の際は，子ども達一人一人の名前を心の中で復唱し，名簿と照らし合わせながら迎え入れましたので「落ち着かない校長だな～」と思った保護者さんもいたかもしれませんが，証書の名前を間違えるほど恥ずかしいことはないので，最終確認を行っていました。

実は，前日の祝日（彼岸）に校長室で執務をしていると，６年生の担任が何度も確認しているようで「間違えたらどうしよう，大丈夫かな～」という声が隣の職員室からもれてきました。担任の先生の呼名も当然緊張します。

さて，式は卒業証書の授与も順調に進み，いよいよ最後の子ども，と，ここで名前がすっかり抜けてしまいました。「校長先生，やっぱり最後だから感極まったのですね，ぐっときちゃいました。」と，後から介添えの先生に言われたのですが，実は名前の読み方を必死で思い出していたのです。普段は毎朝学校の下で迎え入れている子なので，忘れるはずもないのに，過度の緊張が脳を委縮させたようです。（思い出せてよかった～。）

校長となってから，卒業式に自分に課したこだわりが３つあります。その１，卒業証書は自分で書く（達筆です）。その２，卒業証書に付箋は付けない。その３，式辞は原稿を見ない。このこだわりには理由があります。

先に述べたように，学校では卒業式を一番大切な行事としています。担任の５名の先生方をはじめとして，一大イベントに，卒業生，式に参加する５年生は勿論，スタッフ全員が携わります。例えば，今回の式場ステージ。子ども達の巣立ちをイメージしたものですが，これは，用務員さんやＳＳＳさんがコツコツと準備し，何度も飾っては取り外し，試行錯誤を繰り返したものです。児童昇降口の壁面の飾り，廊下の掲示，電報の掲示版，要項づくり等々は，教頭や教務主任を陣頭指揮に全員が一丸となって進めました。みんなが思いを込めて作業を行う中，校長の立ち位置は微妙です。あまり出しゃばるとじゃまにしかなりません。そこで，前出の３つのこだわりです。遠く担任の先生には及びませんが，自分なりに心を込めて卒業生を送り出したいと思い，校長初任校から７年間続けてきました。（ほぼ自己満足ですが…）

式後，来賓の方に「厳かな中にも，優しさが漂う良いお式でした。」と声をかけていただきました。式後の終礼で，早速先生方に伝えました。出来て当たり前の卒業式ですが，いただいた声はとてもうれしく，喜びをスタッフ全員で共有しました。　８２名の子ども達の未来に幸多からんことを祈り。

※裏面もご覧ください。

令和６年度　石川小学校卒業式　式辞原稿（本当はこのような内容で話したかったのです）

秋に植えた校庭の端のチューリップ，今年は雪が多かったため，卒業式には間に合いませんでしたが，もう少したつと，赤や白い花を咲かすことでしょう。春は，すぐ目の前です。

石川小学校を巣立つ８２名のみなさん。ご卒業おめでとうございます。

手にしている卒業証書は，皆さんがこれまでに多くのことを学び大きく成長した証です。

ちょっと開いてみてください。まずそこに書かれている名前です。皆さんが生まれたとき，おうちの方はどんなに喜んだことでしょう。優しく，明るく，そしてとにかく健康に育ってほしいと願いを込めてつけてくださった大切な名前です。隣の生年月日を見てください。平成２４年から２５年皆さんは生まれました。その数年前，東日本大震災があり，世の中は，まだまだ復興途中のとても不安な時でした。そして，小学校に入学して６年，全ての課程を修了した証としての卒業証書です。

証書を閉じましょう。ですから，この証書には，皆さんの成長を願い続けてきたご家族の愛，担任の先生をはじめとした沢山の先生たちの思い，地域の皆さんの期待が込められています。どうか重みを感じ，多くの方々に支えられてきたことを忘れずに大切にしてください。

さて，皆さんは今年石川小１０周年という節目の年に最上級生となりました。初めは慣れないことばかりで失敗やトラブルも多く，友達とのいざかいで登校を渋ることもありました。しかし，担任の先生たちのアドバイスを受け入れ，仲間と相談し，経験を積むごとに石川小自慢のリーダーとなりました。振り返ると，皆さんのたくさんの顔が浮かびます。

運動会での鼓笛，新曲「ヒーロー」を演奏するときの自信に満ちあふれた顔。

小体連陸上，大声で応援し仲間を鼓舞した凜とした顔。

みんなが楽しめるようにと工夫して準備した１０周年記念，フレンドクパークでの優しい顔。

歯を食いしばって最後までゴールを目指した，マラソン大会での汗だくの顔。

どの場面を切り取っても，そこには本気の顔がありました。

自分たちで計画した会津若松での修学旅行。最後の集合場所になかなか現れないグループがありました。時計を何度も確認しながら，仲間の帰りを心配して待っていた皆さんでしたが，１時間近く遅れでやっと到着したグループに，文句や愚痴を口にする人はいませんでした。思いやりの心も育ち，相手の気持ちに寄り添うことができる優しい子どもたちに成長しましたね。

課外活動部での活躍や各種コンクールでの入賞も見事でした。

「結果よりも，そこまでの経過を大切にしてほしい」と，言い続けた一年間。皆さんはなんとその両方を手にしてきました。その姿は学年の合い言葉「風を起こす」そのものです。皆さんの「起こした風」は，全校生を代表して，今日卒業式に参加している５年生にしっかり受け継がれることでしょう。よく頑張りました。

保護者の皆様，改めましてお子様のご卒業おめでとうございます。

お子さんが３年生になろうとしたそのとき，新型感染症が猛威を振るいました。中学年の大切な時の先が見えない中での子育ては大変だったこととお察しします。子どもたちがここまで成長したのは，ご家族の支えのたまものです。我々も，今日までスタッフ一丸となって精いっぱい教育に取り組んできましたが力不足の点もあったかと思います。しかし，いつもあたたかいご理解とご協力を頂きましたこと，深く感謝申し上げます。ありがとうございました。お陰様で，思い切った教育を施すことが出来ました。

本日，ここに，６年間お預かりしました大切な，大切なお子様を，お返しいたします。

子ども達，人生を２４時間に例えると，皆さんの時計はちょうど夜中の３時，まだあたりは真っ暗です。みなさんはもうすぐ昇る東の空の朝日を目指して，新しい一歩を踏み出します。道は真っ直ぐとは限りません。石ころも転がっているでしょう。先を行く友達の姿も気になります。しかし，自分の道は自分でしか歩めません。赤い花は赤く，白い花は白く咲けばよいのです。自分らしく，自信を持って，これからも多くの失敗を学びに変えながら，一歩一歩力強く，たくましく歩んでください。決して振り返ってはいけません。でもね，疲れたとき，心がしぼみそうなときは，顔を見せに来てください。かわいい後輩たちと，先生方が笑顔で待っています。

最後になりましたが，ご多用中にもかかわらず，子ども達の晴れの門出を共にお祝いくださいます，ご来賓の皆様に，心より感謝申し上げまして，式辞といたします。

令和７年３月２１日　　石川町立石川小学校長　　酒井修三